

平成24年度

事業概要



さいたま市食肉衛生検査所

第1章 総説

1 食肉衛生検査所の沿革

- 平成13年 5月 「さいたま市」発足
- 平成13年11月 「さいたま市区の設置等に関する条例」を制定
- 平成14年 4月 政令指定都市移行に向け、埼玉県からさいたま市に移管され、さいたま市保健所食肉衛生検査所設立
- 平成14年11月 庁舎竣工
- 平成15年 4月 政令指定都市「さいたま市」の発足に伴い、さいたま市保健福祉局保健部食肉衛生検査所となる

2 庁舎の概要

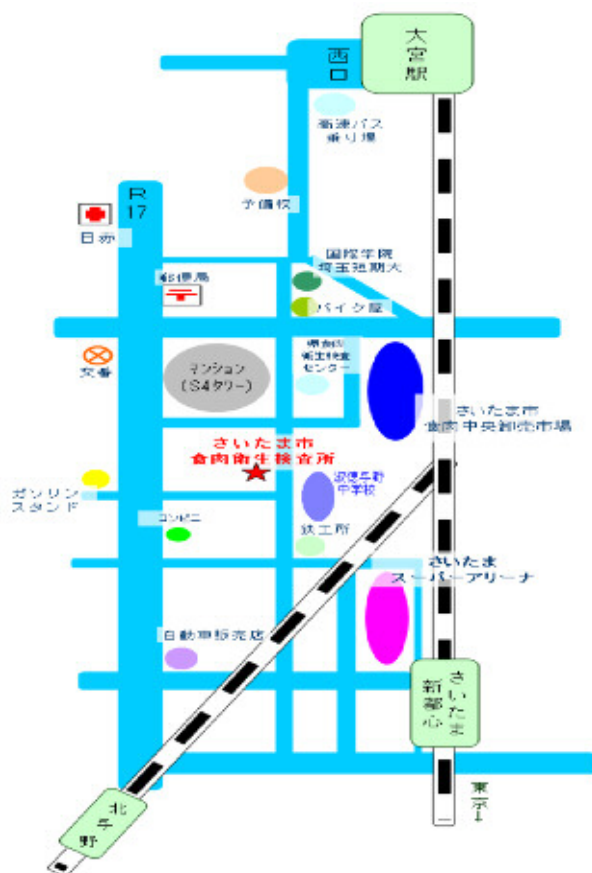
名 称 さいたま市食肉衛生検査所

所在地 〒338-0001 さいたま市中央区上落合5丁目14番21号

電 話 048-851-4100 F A X 048-855-0577

E-mail shokuniku-eisei-kensa@city.saitama.lg.jp

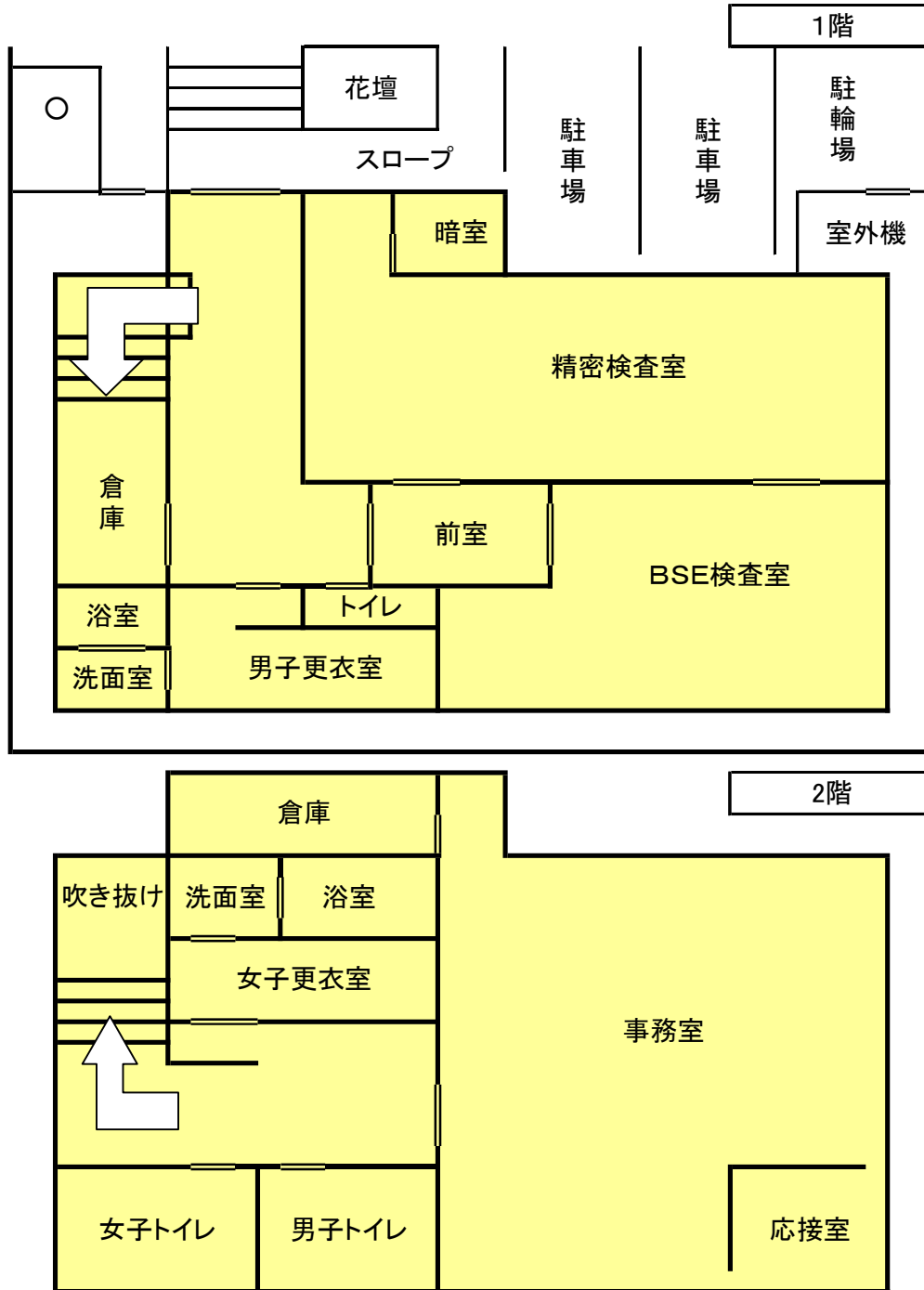
(1) 案内図



● 交通機関(電車の場合)

- 大宮駅西口より、線路沿いを徒歩約15分
- さいたま新都心駅西口より、アリーナ方面に徒歩約10分
- 北与野駅北口より、国道17号沿いを徒歩約10分

(2) 食肉衛生検査所平面図



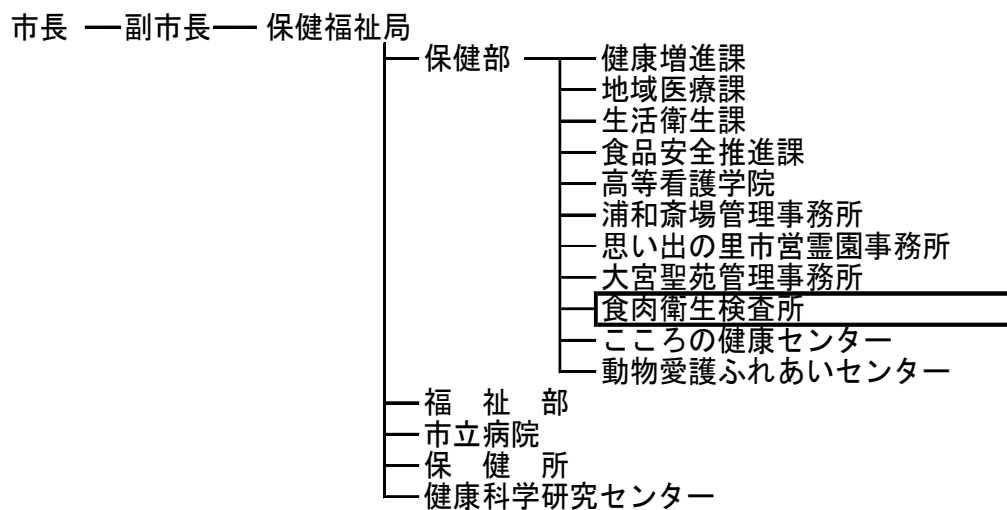
敷地面積: 220. 2^m

(1階)
 精密検査室: 41. 9^m²
 BSE検査室: 36. 8^m²

(2階)
 事務室: 75. 2^m²

3 組織(平成 25 年 4 月 1 日現在)

(1) 市行政組織における位置付け(さいたま市機構図抜粋)



(2) 職員構成 (平成 25 年 4 月 1 日現在)

技術職(獣医師)

所長	(1)
所長補佐(兼)	(1)
管理係長	(1)
食肉検査係長	(1)
主査	(1)
主任	(5)
獣医師	(7)

非常勤特別職職員

獣医師	(1)
他	(2)

(3) 食肉衛生検査所長専決事項

さいたま市事務専決規程（抜粋）

制定 平成15年 3月31日訓令第 8号
最終改正 平成25年 3月29日訓令第 1号

(副市長等の専決事項)

第3条 副市長、局長、部長及び課長の専決事項は、別表第2及び別表第3のとおりとする。(以下略)

別表第2 共通専決事項（略）

別表第3 個別専決事項（抜粋）

(部長専決事項)

食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律（平成2年法律第70号）

- 1 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律第3条の規定による事業を認可すること。
- 2 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律第8条の規定による事業の許可の取消し及び停止命令をすること。
- 3 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律第9条の規定による整備改善の命令及び事業の許可の取消しをすること。
- 4 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律第35条第1項の規定による食鳥検査をすること。

(所長専決事項)

と畜場法（昭和28年法律第114号）

- 1 と畜場法第5条第2項の規定による獣畜の種類及び1日当たりの頭数を制限すること。
- 2 と畜場法第14条第1項から同条第4項の規定による検査の実施及び検査不要の認定をすること。
- 3 と畜場法第16条の規定によるとさつ又は解体の禁止等を措置すること。
- 4 と畜場法第17条第1項の規定による報告の徴収及び立入検査をすること。

食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律（平成2年法律第70号）

- 1 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律第13条の規定による食鳥処理衛生管理者の解任の命令をすること。
- 2 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律第15条第1項から同条第3項の規定による食鳥検査をすること。
- 3 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律第16条第1項及び同条第2項の規定による確認規程の認定、同条第6項の規定による食鳥処理衛生管理者の解任を命令すること。
- 4 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律第20条の規定による公衆衛生上必要な措置をすること。
- 5 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律第37条第1項及び同条第2項の規定による報告を徴収すること。
- 6 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律第38条第1項及び同条第2項の規定による立入検査及び収去をすること。

食品衛生法（昭和22年法律第233号）

- 1 食品衛生法第28条第1項の規定による報告の徴収、臨検検査及び収去をすること。（食肉中央卸売市場内に限る。）
- 2 食品衛生法第30条第2項の規定による監視指導をすること。（食肉中央卸売市場内に限る。）
- 3 食品衛生法第54条の規定による廃棄又は必要な措置を命令すること。（食肉中央卸売市場内に限る。）

(4) 特殊勤務手当

さいたま市職員特殊勤務手当に関する条例（抜粋）

制定 平成13年 5月 1日条例第44号

最終改正 平成21年 3月17日条例第 5号

(試験、検査等業務手当)

第20条 試験、検査等業務手当は、次に掲げる職員に支給する。

- (1) と畜検査の業務（規則で定めるものに限る。）に従事した獣医師（抜粋）
- 2 前項に規定する手当の額は、次の各号に掲げる職員の区分に応じ、当該各号に定める額の超えない範囲内において規則で定める額とする。
 - (1) 前項第1号に掲げる職員 従事した日1日につき400円（抜粋）

(5) 主要検査機器一覧

検査機器名	規 格
分光光度計	日立ハイテクノロジーズ U-1500
温湿度記録計	アズワン TR-72s
迅速乾燥装置	アズワン SPH-10N
赤外線ホットプレート&スターラ	Fisher Brand IR-6100
試験管ミキサー	アズワン NS-80
アルミブロック恒温槽	タイテック DTU-2C タイテックアルミブロック DTU-2B
クールブロックバス	アズワン EC-40R
小型インキュベーター	アズワン 120-5
パリスナインキュベーター	アズワン PI-301
mini VIDAS	99088
フリーザー付き薬用冷蔵ショーケース	三洋電機バイオメディカ MPR-411FR 三洋電機バイオメディカ MPR-213F
細菌検査用ホモジナイザー	ストマッカー400 サーキュレーター
ピペット超音波洗浄装置	シャープ UT-55
煮沸消毒器ステンレス製	都市ガス式 51820
オートクレーブ	トミー精工社製 KS-323 (株)平山製作所 HV-50
オートクレーブ	トミー精工社製 LSX-300
システム実体顕微鏡	ニコン SMZ1500 型
臨床用生物顕微鏡	ニコン E2T-C(E200)
一眼レフカメラセット	ミノルタ α -7
デジタルカメラセット	ミノルタ DiIMAGE 7
一眼レフカメラ	ニコン U
防水デジタルカメラ	Olympus μ -40 他
乾熱滅菌セット	アドバンテック
微量高速遠心機	KUBOTA3780
冷却遠心機	H-15FR
臓器撮影装置	杉研 MPS-II
製氷機	星崎(株) FM-120F
ELISA 検査用マイクロプレートリーダーシステム	BioRad モデル 680
pH メーター	HORIBA F-22II
防水電子天秤	xk-0339-025

マルチビーズショッカー	安井器械 MB524TMA
卓上型超音波洗浄機	シャープ UT-305
蛍光顕微鏡セット	Nikon E600 シリーズ
バイオハザード対策用キャビネット(クラス II タイプ A/B3)	三洋電機バイオメディカ MHE130AB3
インキュベーター	三洋電機バイオメディカ MIR-253
卓上小型遠心機	KUBOTA2010
多目的微量遠心器	アズワン ATT101
超低温フリーザー	三洋電機バイオメディカ MDF-382AT
ヘマトクリット遠心機	コクサン H=1200C
薬用冷蔵ショーケース	三洋電機バイオメディカ MPR-311D
インキュベーター	三洋電機バイオメディカ MIR-253
純水製造装置	日本ミリポア社 Elix5
UV デシケーター	UVLH-400
卓上振とう器	FNX-220
クリーンラボフード	LF-600CL
電子天秤	A&D GF-600 A&D GF-300
パソリナ試験管ミキサー	アズワン NS-80
ホモジナイザー一式	旭テクノ DIAX100
デジタルビデオカメラ	SONY TRV 18K
ELISA 検査用マイクロプレートリーダー解析用 PC	DELL C610 他
冷凍冷蔵庫	EDX-42PM7
ロータリーエバポレーター	REN-1000V
真空ポンプユニット	MDA020C
マルチミキサー	MIX-101
動物用生化学自動分析装置	富士ドライケム 4000
アズマックス マイクロストリップリーダー	STATFAX303Plus
フード付きウォーターバス	GK-0086-10
プレートインキュベーター	アルプ ITD-20E 型
マイクロプレートミキサー	アズワン GT-0253-01
低温インキュベーター	FMU-0522
遺伝子増幅装置(サーマルサイクラー)	Gold 96-well GeneAmp PCR System 9700

遺伝子分析装置一式	UVP BioDoc-It Imaging System LMS-20E 他
マイクロプレートウォッシャー	ハイドロフレックス M8/Ch2
卓上小型遠心器	富士フィルム AcNo-3
プログラムインキュベーター	アズワン CN-40A
ウォーターバスシェイカー	東京理化機械株式会社 NTS-4000B
ヒートブロック	タイテックアルミブロック DTU-2B
電子天秤	A&D FX-500i A&D FX-300i

(6)蔵書一覧

1 法律書

題名	著者名	出版社名（発行）
家畜伝染病予防法関係法規集	農林水産省消費・安全局動物衛生課 監修	文永堂出版
獣医畜産六法(平成13年版)	Mary Jo Zimbro 他	新日本法規
食品衛生小六法(平成22年版)		新日本法規
食品衛生関係法規(埼玉県例規版)		中央法規
獣医公衆衛生法規集		中央法規

2 食品・食肉衛生

題名	著者名	出版社名（発行）
Farbatlas der Schlachttierkörper-Pathologie bei Rind und Schwein		Enke
Food Animal Pathology and Meat Hygiene	Herenda・Franco	Mosby Year Book
MEAT HYGIENE	JOSEPH GRACEY 他	SAUNDERS
異物防除と食品衛生	西田 博	中央法規
お肉の表示ハンドブック 改訂版	(財)日本食肉消費総合センター	(財)日本食肉消費総合センター
改訂 食品衛生における微生物制御の基本的考え方	倉田 浩 他	社団法人 日本食品衛生協会
牛肉<1>枝肉の見かた・捌きの基本		
食水系感染症と細菌性食中毒	坂崎 利一 編集	中央法規出版
食鳥処理衛生ハンドブック	厚生労働省医薬局食品保健部監視安	(社)日本食品衛生協会
食肉衛生検査Q&A	埼玉県食肉衛生検査センター	
食肉衛生検査所 30年の歩み(神奈川県)		神奈川県食肉衛生検査所
食肉衛生品質管理マニュアル(と畜場・食肉センター編)	栗原 貯 他	社団法人全国食肉学校
食肉衛生品質管理マニュアル(部分肉・精肉処理編)	栗原 貯 他	社団法人全国食肉学校
食肉処理技法(牛・豚部分肉)		社団法人全国食肉学校
食肉処理技法(牛・豚精肉)		社団法人全国食肉学校
食肉処理技法(食肉加工品)		社団法人全国食肉学校
食肉処理技法(食肉惣菜 調理編)		社団法人全国食肉学校
新・食肉衛生検査マニュアル	全国食肉衛生検査所協議会・著	中央法規出版
食品衛生関係法規集(埼玉県例規版)		中央法規
食品衛生検査指針 食品添加物編	厚生労働省 監修	(社)日本食品衛生協会
食品衛生検査指針 微生物編	厚生労働省 監修	(社)日本食品衛生協会
食品衛生検査指針 理科学編	厚生労働省 監修	(社)日本食品衛生協会
食品衛生検査マニュアル	森地 敏樹	栄研機材株式会社

畜水産食品の薬物残留とその分析法	(財)畜産生物科学安全研究所	近代出版
食品安全リスク分析		(社)日本食品衛生協会
食品衛生検査マニュアル	厚生省環境衛生局乳肉衛生課	中央法規出版
食品衛生学	山中 英明他	恒星社厚生閣

3 獣医学

題名	著者名	出版社名（発行）
BD Difco&BBL Manual	Mary Jo Zimbro 他	BD Diagnostic Systems
PATHOLOGIC BASIC OF DISEASE		ELSEVIER SAUNDERS
Textbook of Medical Physiology 11th	Guyton&Hall	W B Saunders Co
Tumors in Domestic Animals.4thed.Donald J.meuten	DonaldJ.Meuten,Editor	Blackwell publishing
医学細菌同定の手引き	G. I. Barrow	近代出版
牛病カラーアトラス	W. J. Smith 他	チクサン出版社
牛の解剖アトラス 第1版	Klaus-Direter Budras 他	チクサン出版社
牛の先天異常	監修 浜名 克己	学窓社
栄研マニュアル		栄研化学株式会社
改著 家畜比較解剖図説上巻	加藤 嘉太郎 他	養賢堂
改著 家畜比較解剖図説下巻	加藤 嘉太郎 他	養賢堂
家畜臨床寄生虫アトラス	平 詔亨 他	チクサン出版社
カラーアトラス 犬と猫の細胞診	石田 卓夫 監訳	文永堂出版
カラーアトラス獣医解剖学上	カラーアトラス獣医解剖学編集部/監修	チクサン出版社
カラーアトラス獣医解剖学下	カラーアトラス獣医解剖学編集部/監修	チクサン出版社
外科病理学	石川 栄世 他 編	文光堂
狂犬病対応ガイドライン 2001	狂犬病対策研究会編	インフラックスコム
骨髓病理アトラス	菊池昌弘 大島孝一 阿南建一	文光堂
CD-ROM最新医学大辞典 第3版 画像増補版		医歯薬出版
細菌学実習提要		
殺菌・消毒マニュアル カラー版	都築 正和 監修	医歯薬出版株式会社
獣医解剖学	山内 昭二 他 編	近代出版
獣医学大辞典		チクサン出版社
獣医感染症カラーアトラス	見上 彪 監修	文永堂出版
獣医公衆衛生学 第3版 文栄堂	高島郁夫・熊谷進 編	文永堂出版
獣医内科診断学	長谷川 篤彦 他 監修	文永同出版
獣医病理組織カラーアトラス	板倉 智敏	文永堂

獣医臨床病理学	小野 憲一郎 他 編	近代出版
主要症状を基礎にした牛の臨床 新版	前出 吉光 他 監	デイリーマン社
新 細菌培地学講座 下1	坂崎 利一	近代出版
新 細菌培地学講座 下2	坂崎 利一	近代出版
新 細菌培地学講座 上	坂崎 利一	近代出版
腎疾患の病理アトラス	重松秀一・城 謙輔・田口 尚 監訳	東京医学社
新 獣医内科学	村上 大蔵 他 編	文永堂
新 染色法のすべて 月刊 Medical Technology 別冊	藤田 勝治	医歯薬出版株式会社
新版 獣医臨床寄生虫病学 産業動物編	獣医寄生虫学会編集委員会	文永堂
新編 獣医ハンドブック	中村 良一 他 編集	養賢堂
新編 獣医微生物学	梁川 良 他	養賢堂
畜産大事典	田先 威和夫	養賢堂
畜産のための形態学	星野 忠彦	川島書店
腸内細菌 上巻	坂崎 利一 他	近代出版
腸内細菌 下巻	坂崎 利一 他	近代出版
添付文書集(細菌検査試薬)		デンカ生研株式会社
添付文書集(ウイルス・実動・免疫血清)		デンカ生研株式会社
動物の感染症	清水 悠紀臣 他	近代出版
動物病理学各論	日本獣医病理学会編	文永堂出版
動物用医薬品・飼料添加物	城戸 靖雅 他	中央法規
動物用医薬品用具総覧 2002 年度版		(社)日本動物薬事協会 編
豚病カラーアトラス	R. W. Blowey 他	チクサン出版社
豚病学 生理・疾病・飼養	柏崎 守 他	近代出版
入門クロマトグラフィ	長谷川 篤彦 他 監修	文永堂
農業の衛生学と毒物学	シツコワ・リヤザノワ	講談社
バイオ実験イラストレイテッド1 分子生物学実験の基礎	中山 広樹 他	秀潤社
バイオ実験イラストレイテッド2 遺伝子解析の基礎	中山 広樹 他	秀潤社
バイオ実験イラストレイテッド3 新版 本当にふえる PCR	中山 広樹	秀潤社
比較血液学カラーアトラス	C.M.Hawkey T.B.Dennett 監修:長谷川篤彦	学窓社
微生物学実習提要	東大医科学研究所学友会	丸善株式会社
微生物検査必携(ウイルス・クラミジア・リケッチア検査)		日本公衆衛生協会
病性鑑定マニュアル 第3版	農水省畜産局	全国家保衛生業績発表会協賛会
病理組織アトラス	飯島 宗一	文光堂

マクロ病理学カラーアトラス		学窓社
明解 哺乳類と鳥類の生理学	William O.Reece 著 鈴木勝司・徳力幹彦 監修	学窓社
やさしい獣医組織学	成田 寛 他	チクサン出版社
理化学辞典	長倉 三郎 他 編集	岩波書店
最新獣医公衆衛生学	監修 田村 豊	チクサン出版社
小動物における細胞診の初歩の初歩	編著 酒井洋樹	チクサン出版社
細胞診を学ぶ人のために 第4版	編著 坂本 穆彦	医学書院
豚のリンパ腫 獣医師のための染色体診断ガイド	谷津 壽朗 著	(財)宮城県公衆衛生協会
新版家畜の悪性伝染病	小澤 義博/佐々木 正雄	緑書房
獣医微生物実験マニュアル	原澤 亮/本多 英一	緑書房
ドキュメント口蹄疫	宮崎日日新聞社・著	農文協

4 辞典・辞書

題名	著者名	出版社名（発行）
現代独和辞典	編集 R・シンチンゲル 山本明 南原実	三修社
新獣医英和辞典		

5 その他

題名	著者名	出版社名（発行）
「分かりやすい文章」の技術 読み手を説得する 18のテクニック	藤沢 晃治	講談社ブルーバックス
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15のルール	藤沢 晃治	講談社ブルーバックス
さらば消毒とガーゼ	夏井 睦	春秋社
達人が教える Excel 集計テクニック 156	早坂 清志	毎日コミュニケーションズ

(7) とちく検査手数料

さいたま市衛生関係事務手数料条例（抜粋）

制定 平成13年12月28日 さいたま市条例 第312号

最終改正 平成21年 3月17日 さいたま市条例 第 8号

(種類及び額)

第2条 手数料を徴収する事務の種類及びその額は、別表のとおりとする。

(徴収及び不還付)

第3条 手数料は、前条に規定する手数料を徴収する事務についての申請があった際に徴収する。

2 手数料は、その納付後において申請事項を変更し、又は取り消しても、還付しない。

(別表)

と畜場法第14条第1項から第4項までの規定による獣畜のとさつ又は解体の検査

(1) 生後1年以上の牛又は馬	1頭につき	700円
(2) 生後1年未満の牛又は馬	1頭につき	300円
(3) 豚、めん羊又は山羊	1頭につき	300円

食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律第15条第1項から第3項までの規定による食鳥検査

(1) 1羽につき	5円
-----------	----

(8) とちく場外への持ち出し許可

ア と畜場法第14条第3項第2号の規定に基づき、以下の施設に持ち出し許可をしています。

持ち出し対象部位	許可施設	所在地
卵 巢	独立行政法人 家畜改良センター	福島県西白河郡西郷村
	独立行政法人 畜産草地研究所	栃木県那須塩原市
	独立行政法人 農業生物資源研究所	茨城県つくば市
	社団法人 家畜改良事業団 家畜バイテクセンター※	東京都品川区
皮	橋本産業 株式会社	埼玉県熊谷市

イ 牛海綿状脳症対策特別措置法第7条第2項ただし書きの規定に基づき、以下の施設に焼却免除の許可をしています。

持ち出し対象部位	許可施設	所在地
歯	株式会社ロッセ中央研究所	埼玉県さいたま市
歯	明海大学歯学部	埼玉県坂戸市

※平成24年5月より許可。

平成25年4月1日付けで一般社団法人に移行。

(9) 平成24年度歳入・歳出状況

【歳 入】

(単位：円)

	平成24年度	平成25年度(予算額)
とちく検査手数料	29,803,800	31,530,500

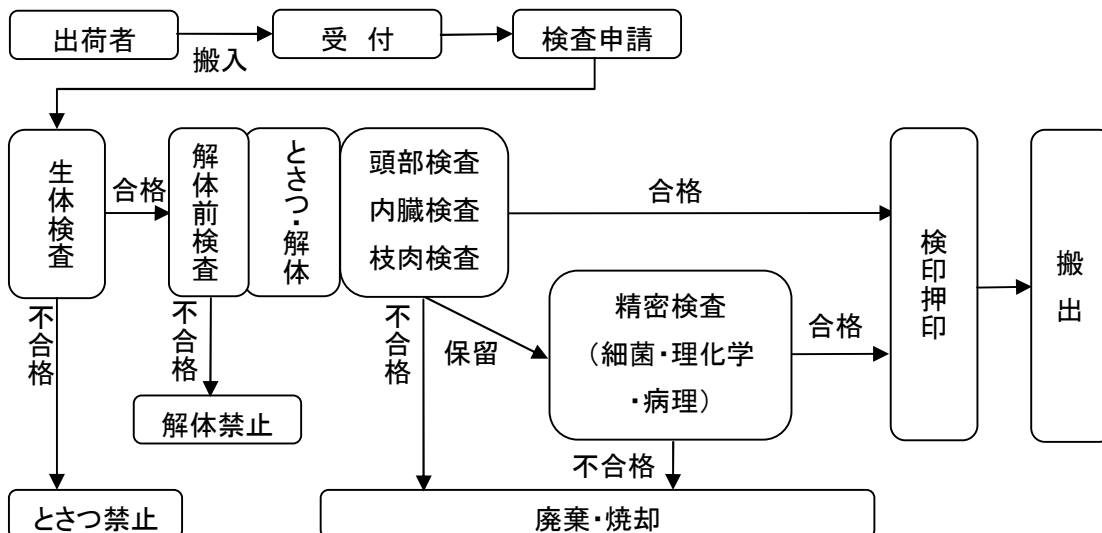
【歳 出】

(単位：円)

歳出科目	平成24年度	平成25年度(予算額)
需用費	28,167,780	34,645,000
役務費	1,496,045	1,693,000
旅費	537,681	584,000
委託料	2,820,062	3,121,000
使用料及び賃借料	1,897,502	2,200,000
備品購入費	207,690	520,000
負担金補助及び交付金	57,000	57,000
計	35,183,760	42,820,000

第2章 事業の概要

1 とちく検査の流れ



※牛については、全頭に対しエライザ法によるBSEスクリーニング検査を行っています。スクリーニング検査で陽性になったものは、国の専門機関に検体を送り、確認検査を行います。確認検査で陽性の場合、専門家会議が開かれ最終確定診断されます。陽性の牛はすべて焼却処分されます。

2 所掌事務

- (1) 獣畜の疾病・異常の排除（1頭ごとに肉眼検査）
- (2) 精密検査・調査研究・BSE検査（疾病診断のため）
- (3) 食鳥処理場の巡回指導（食鳥処理衛生管理者の技術向上のため）
- (4) とちく場の衛生管理指導（O157を主とした微生物制御など）
- (5) 調査研究（職員の技術向上及びとちく場の衛生保持のため）

3 検査の概要

(1) とちく場開場日数

246日

(2) 畜種別とちく検査頭数

	牛	子牛	馬	豚	めん羊 山羊	合計
普通畜	15,962	79	3	61,528	0	77,572
病畜	196	0	0	30	0	226
計	16,158	79	3	61,558	0	77,798

牛のとちく頭数は前年度よりも4.3%減でした。また豚は3.0%減でした。また職員一人の一日当りとちく検査頭数は豚に換算すると50頭で、昨年度と比べ3.8%減でした。（牛の頭数1頭を豚の頭数3頭として換算）

(3) 精密検査頭数

とちく検査において肉眼で判定が難しい場合には、より詳しい検査を行い総合的に判断しています。

	細菌学	理化学	病理学	TSE検査	合計
牛	12	27	68(15)	16,158	16,265(15)
子牛	0	0	0	79	79
馬	0	0	0		0
豚	22	4	10(10)		36(10)
めん羊 山羊	0	0	0		0
計	34	31	78(25)	16,237	16,380(25)

※（ ）内は外部依頼検査の内訳

ア 細菌学的検査

敗血症、豚丹毒などの疾病診断を行うため、検査を実施しました。

イ 理化学的検査

尿毒症、黄疸、抗菌性物質残留を調査するため、検査を実施しました。

ウ 病理学的検査

腫瘍、炎症、変性などの診断を行うため、検査を実施または一部をさいたま市健康科学研究センターに依頼しました。

エ TSEスクリーニング検査

	30 か月齢以上	30 か月齢未満
検査陽性頭数	0	0
検査陰性頭数	11,751	※4,485

16,237 頭について検査を行い、全頭陰性でした。

※うち20ヶ月齢以下の牛は638頭（牛全体の3.9%）でした

(4) 搬入枝肉の検査状況

さいたま市食肉中央卸売市場に枝肉で搬入されるものについて食品衛生法に基づく検査を実施しています。

種 別	牛	子牛	馬	豚
頭 数	0	0	0	2,796

搬入枝肉検査頭数は合計2,796頭でした。

(5) その他

さいたま市食肉中央卸売市場で販売された卸売物品について、肉質の検査を行いました。

種 別	牛	子牛	馬	豚	合計
頭 数	50	0	0	6	56

4 食鳥検査

市内の年間処理羽数30万羽以下の認定小規模食鳥処理場を、定期的に巡回し、技術指導を行っています。なお、生鳥のとさつから解体まで一貫処理している形態の施設や、年間30万羽を超えて処理する大規模食鳥処理場はありません。

(1) 認定小規模食鳥処理場施設数

	鶏処理施設
①とさつから解体まで一貫処理	0
②食鳥と体を仕入れ、解体処理	9
計	9

(2) 認定小規模食鳥処理場巡回指導状況

処理場数	9
巡回・監視指導件数	80
巡回指導等出動日数	18

(3) 確認状況報告

処理した食鳥の羽数	1,436
基準に適合した羽数	1,436
基準に不適合な羽数	0

5 とちく場及び食鳥処理場の衛生対策

(1) とちく場及び食鳥処理場の衛生検査等

施設の衛生管理や衛生的な処理作業を目的とした検査、および食肉中の有害残留物質等についての検査を実施し、これらの結果に基づき監視指導を行っています。

(一部の検査をさいたま市健康科学研究センターに依頼しました。)

【細菌検査】

- ・牛、豚及び鶏の腸管内微生物保有状況調査（腸内細菌：153検体）
- ・牛肝臓微生物検査（0157：80検体）
- ・食鳥肉の細菌数検査（一般細菌：21検体、大腸菌群：21検体）
- ・食肉輸送車荷台ふき取り検査（20検体）
- ・牛枝肉0157のモニタリング検査（122検体）

【理化学検査】

- ・食肉中の残留物質（農薬含む）検査
（牛52検体、豚9検体：7, 922項目）

【国の通知に基づく検査】

- ・牛枝肉の細菌数検査（一般細菌：40検体、大腸菌群40検体）
- ・豚枝肉の細菌数検査（一般細菌：40検体、大腸菌群40検体）
- ・牛枝肉の脳・脊髄組織汚染検査（80検体）
- ・食肉中残留有害物質のモニタリング検査（牛・豚各10検体）

(2) 食肉衛生月間の実施

ア 衛生講習会

食肉の衛生的な取り扱いを心がけてもらうために各従事者に対して年1回衛生講習会を実施しています。

実施期間 平成24年9月20日、27日

対象者 とちく場関係者（解体作業、内臓取扱作業従事者）

演 題

- ・レバー拭き取り結果について
- ・食肉処理における衛生管理について
- ・係留所の衛生管理について

受講者数 95名

イ 食肉輸送車両のふき取り検査

枝肉輸送車両の荷台ふき取り検査を行いました。

対象車両数 20台

調査項目 大腸菌群数

結 果 陽性車両 3 台

ウ 表彰

年 1 回、衛生功労者と優良従業員に対して表彰を行っています。

実施年月日 平成 2 4 年 9 月 2 0 日、2 7 日

受 賞 者 優良従業員 3 名（衛生功労者は該当者なし）

(3) 普及啓発事業

ア 視察、見学及び学生実習等の受入れ状況

国及び他自治体からの視察・見学希望者を受入れ、主な事業や食肉衛生検査についての説明を行いました。

期 日	団体名	人数
6 月	越谷市	2
2 月	埼玉県食肉衛生検査センター	2
3 月	埼玉県家畜保健衛生所	2

イ ホームページによる情報公開

さいたま市のホームページ上で食肉衛生検査所の概要について、情報公開を行い、随時更新しています。（アドレス：<http://www.city.saitama.jp>）

6 職員研修等

(1) 各種研修会への派遣

期日	内容	開催地	人数
5月	さいたま市新任食品衛生監視員研修会	さいたま市	2
	全国食肉衛生検査所協議会 微生物部会 第1回常任幹事会	東京都	4
	関東甲信越ブロック食肉衛生検査所協議会総会及び所長等会議	埼玉県	1
6月	埼玉県食品衛生監視員等研修会	埼玉県	1
	さいたま市食品衛生監視員等研修会	さいたま市	2
7月	全国食肉衛生検査所長会議	鹿児島県	2
9月	公衆衛生獣医師協議会 全国研修・調査研究発表会	東京都	1
10月	全国食肉衛生検査所協議会 微生物部会 第2回常任幹事会	東京都	2
	関東甲信越静地区食肉衛生担当者会議	東京都	1
	全国食肉衛生検査所協議会 理化学部会	宇都宮	1
	関東甲信越ブロック食肉衛生検査所協議会 業績発表会	埼玉県	3
	全国食品衛生監視員研修会	東京都	2
11月	全国食肉衛生検査所協議会 病理部会	神奈川県	4
	食の安全を確保するための微生物検査協議会	東京都	1
	全国食肉衛生検査所協議会 微生物部会	さいたま市	4
	全国食肉衛生検査所協議会 微生物部会 全国幹事会	さいたま市	4
1月	食肉衛生技術研修会・衛生発表会	東京都	3
	食鳥肉技術研修会・衛生発表会	東京都	4
	感染症情報センター研修会	埼玉県	1
2月	日本獣医師会学会年次大会	北海道	1
	埼玉県食品衛生技術研修会	埼玉県	1
	食肉衛生技術研修会・衛生発表会	東京都	2
	食鳥肉技術研修会・衛生発表会	東京都	2
	埼玉県・さいたま市食肉衛生技術研修会	さいたま市	6
3月	全国食肉衛生検査所協議会 微生物部会 第3回常任幹事会	東京都	4
	家畜保健衛生所連絡調整会議	埼玉県	1

(2) 学術研究調査用検体採取への協力

埼玉県中央家畜保健衛生所、埼玉県熊谷家畜保健衛生所、独立行政法人家畜改良センター、独立行政法人畜産草地研究所、独立行政法人農業生物資源研究所、株式会社ロツテ中央研究所、埼玉県農林総合研究センター畜産研究所、明海大学歯学部、東京電機大学などからの依頼により、採材に協力しました。

(3) 調査・研究

2月に埼玉県・さいたま市食肉衛生技術研修会にて発表しました。

演題
牛レバー処理の衛生管理に対する指導について

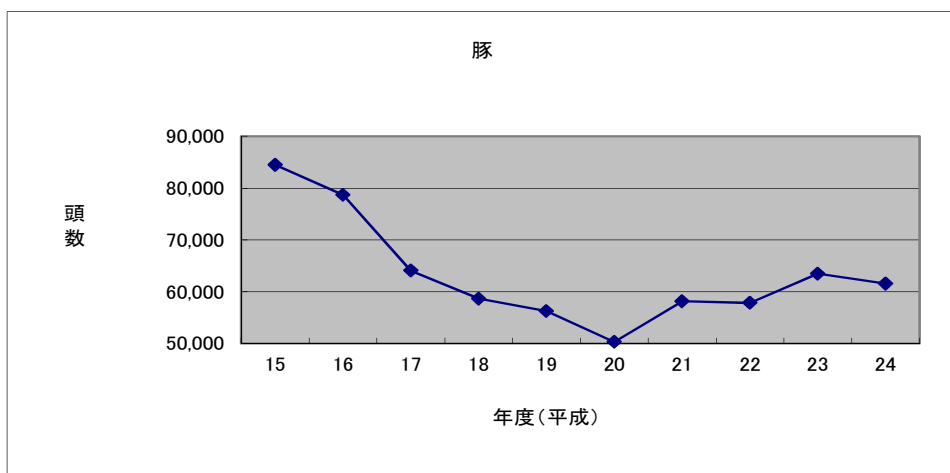
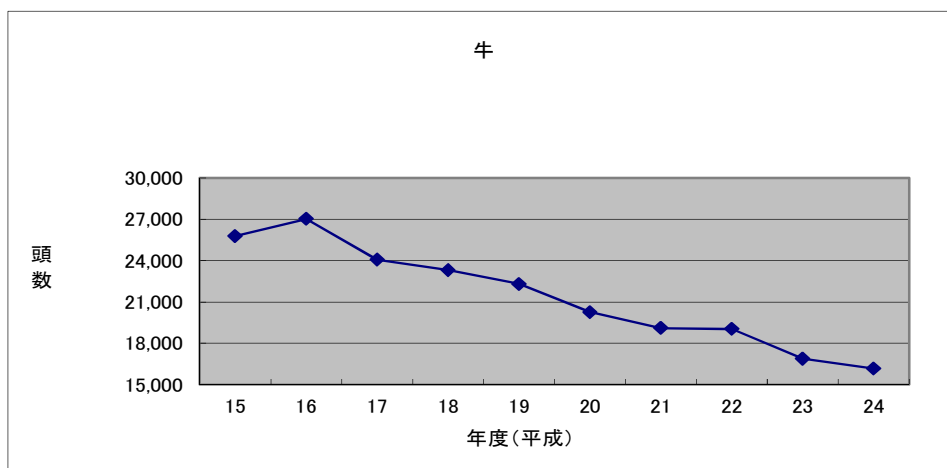
第3章 とちく検査統計

1 とちく検査頭数

牛の最近10年間のとちく検査頭数は2万頭台から徐々に減少し、平成21年度からは1万頭台になり、平成24年度は更に減少しました。

豚は8万頭台から徐々に減少していましたが、平成20年度から増加傾向にあります。

年度(平成)	牛	子牛	馬	豚	めん羊・山羊
15	25,779	331	19	84,491	0
16	27,032	79	8	78,703	0
17	24,068	35	10	64,089	0
18	23,310	52	6	58,654	0
19	22,306	148	8	56,253	0
20	20,267	316	6	50,300	0
21	19,100	121	4	58,162	0
22	19,033	108	3	57,856	0
23	16,873	85	0	63,471	0
24	16,158	79	3	61,558	0

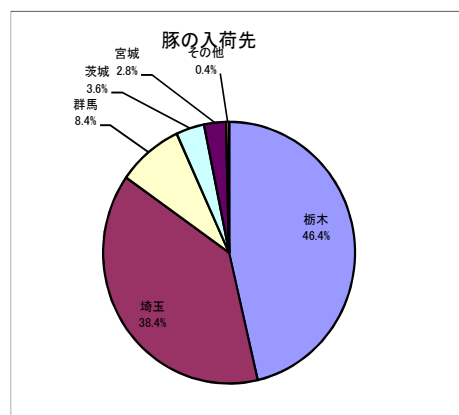
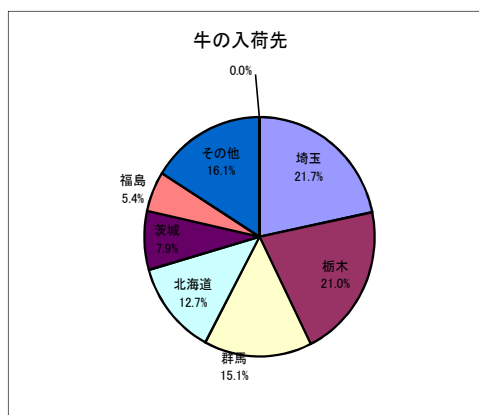


2 入荷先別とちく検査頭数

入荷先の内訳をみると、牛については埼玉県と栃木県が 21%でした。豚については栃木県が最も多く 46%、埼玉県がこれに続き 38%でした。

牛は北海道を含め東日本の各地から入荷されましたが、豚は埼玉県と隣接 3 県で入荷先のほとんどを占めました。

	牛 (%)	子牛	馬	豚 (%)	小計
北海道	2,060 (12.7 %)	0	0	0 (0.0 %)	2,060
青森	18 (0.1 %)	0	0	0 (0.0 %)	18
岩手	217 (1.3 %)	0	0	0 (0.0 %)	217
宮城	17 (0.1 %)	0	0	1,734 (2.8 %)	1,751
秋田	352 (2.2 %)	2	0	0 (0.0 %)	354
山形	279 (1.7 %)	0	0	0 (0.0 %)	279
福島	875 (5.4 %)	3	0	40 (0.1 %)	918
茨城	1,283 (7.9 %)	8	0	2,239 (3.6 %)	3,530
栃木	3,386 (21.0 %)	39	0	28,536 (46.4 %)	31,961
群馬	2,443 (15.1 %)	3	0	5,185 (8.4 %)	7,631
埼玉	3,509 (21.7 %)	16	1	23,630 (38.4 %)	27,156
千葉	400 (2.5 %)	2	0	0 (0.0 %)	402
東京	239 (1.5 %)	4	0	7 (0.0 %)	250
神奈川	1 (0.0 %)	0	2	0 (0.0 %)	3
新潟	188 (1.2 %)	1	0	0 (0.0 %)	189
山梨	11 (0.1 %)	0	0	187 (0.3 %)	198
長野	573 (3.5 %)	1	0	0 (0.0 %)	574
岐阜	1 (0.0 %)	0	0	0 (0.0 %)	1
三重	13 (0.1 %)	0	0	0 (0.0 %)	13
和歌山	78 (0.5 %)	0	0	0 (0.0 %)	78
広島	1 (0.0 %)	0	0	0 (0.0 %)	1
山口	1 (0.0 %)	0	0	0 (0.0 %)	1
佐賀	2 (0.0 %)	0	0	0 (0.0 %)	2
長崎	7 (0.0 %)	0	0	0 (0.0 %)	7
熊本	5 (0.0 %)	0	0	0 (0.0 %)	5
大分	2 (0.0 %)	0	0	0 (0.0 %)	2
宮崎	25 (0.2 %)	0	0	0 (0.0 %)	25
鹿児島	165 (1.0 %)	0	0	0 (0.0 %)	165
沖縄	7 (0.0 %)	0	0	0 (0.0 %)	7
合計	16158 100.0 %	79	3	61,558 100.0 %	77,798



3 とちく禁止又は廃棄したものの原因

	廃棄	処分頭数	細菌病							ウイルス・リケッチャ病		原虫病		寄生虫病			その他の疾病							計		
			炭疽	豚丹毒	サルモネラ病	結核病	ブルセラ病	破傷風	放線菌症	その他	豚コレラ	その他	トキソプラズマ	その他	のう虫病	ジストマ病	その他	膿毒症	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫	腫瘍		中毒諸症	炎症または炎症産物による汚染
牛	全部	438														17	64	6	1	65	58		226	1		438
	一部	13,264						4						8	1					211			8,826	5,729	3,267	18,067
とく	全部	4														1	2						1			4
	一部	51																		2			48	5	2	57
馬	全部	0																								0
	一部	3																					3			3
豚	全部	76		3	1											33	32	1	2	15	10		7	8		112
	一部	20,267							147											49	4		15,645	1,349	4,036	21,230
めん羊	全部																									0
	一部																									0
山羊	全部																									0
	一部																									0

※と殺解体禁止の獣畜は認められませんでした。

4 病類表

(1) 全部廃棄

ア 概要

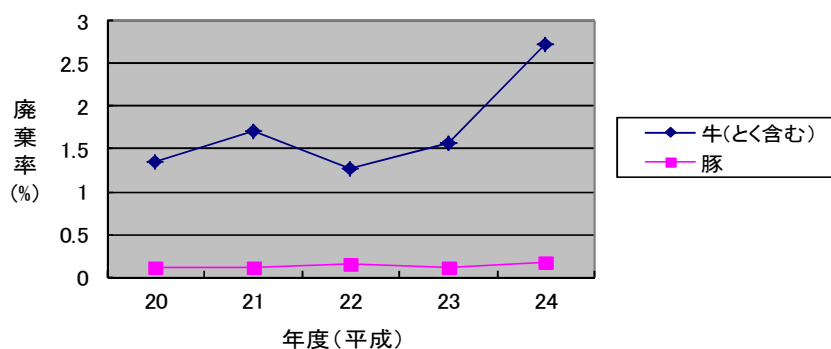
全部廃棄の頭数は牛438頭、子牛4頭、豚112頭の計551頭でした。馬の全部廃棄はありませんでした。検査総頭数に対する割合は牛2.7%、子牛5.0%、豚0.2%でした。

	牛	子牛	馬	豚	合計
豚丹毒				3	3
敗血症	64(2)	2		32	98
膿毒症	17(5)	1		33	51
尿毒症	1(1)			1	2
高度の黄疸	3			2	5
高度の水腫	65(9)			15	80
全身性腫瘍	58(1)			10	68
全身性筋炎	226(138)	1		7	234
全身性筋変性	1			8	9
その他	0	0		1	1
小計	438(156)	4	0	112	551

※ () 内は内病畜の数を記しています。なお山羊・めん羊のとちくはありませんでした。

イ 年度別と体全部廃棄状況

年度(平成)	牛(とく含む)		豚	
	実数	廃棄率(%)	実数	廃棄率(%)
20	279	1.36	61	0.12
21	320	1.7	94	0.12
22	245	1.28	90	0.16
23	264	1.56	76	0.12
24	442	2.72	112	0.18



(2) 一部廃棄

ア 牛					
疾病名	年計		疾病名	年計	
呼吸器総数	2,089		造血・循環器総数	777	
肺気腫	361		心外膜炎	449	
肺炎	201		心色素変性	188	
異吸肺	143		心出血	56	
肺膿瘍	103		心水腫	32	
肺胸膜炎	24		心筋炎	25	
血吸肺	7		脂肪心	7	
横隔膜炎	643		心奇形	7	
横隔膜膿瘍	332		心内膜炎	6	
横隔膜水腫	56		心石灰沈着	2	
横隔膜色素変性	7		心筋膿瘍	1	
横隔膜ヘルニア	1		脾腫	3	
横隔膜出血	1		脾膿瘍	1	
胸膜炎	210		泌尿・生殖器総数	2,459	
消化器総数	13,333		腎炎	1,551	
胃炎	784		嚢胞腎	288	
胃膿瘍	211		腎周囲脂肪壊死	251	
胃周囲脂肪壊死	57		腎色素変性	68	
腸炎	364		腎膿瘍	24	
腸間膜脂肪壊死	183		腎水腫	17	
腸水腫	4		腎結石	6	
腸膿瘍	4		水腎症	3	
腸出血	3		萎縮腎	1	
おがくず肝	4,822		膀胱炎	1	
富脈班	2,480		膀胱膿瘍	1	
肝包膜炎	1,771		乳房炎	248	
肝炎	763		運動器総数	5,590	
肝膿瘍	617		筋炎	4,953	
肝色素変性	256		筋膿瘍	263	
脂肪肝	198		筋水腫	93	
肝斑状出血	80		筋変性	11	
肝巣状脂肪化	39		筋石灰沈着	10	
肝奇形	22		筋出血	3	
うっ血肝	17		骨膿瘍	59	
嚢胞肝	15		骨折炎症	50	
肝蛭症	8		脱臼炎症	23	
肝硬変	1		骨変形	18	
膵膿瘍	2		関節炎	98	
膵炎	1		関節膿瘍	2	
胆管炎	243		炎症汚染	1	
胆のう炎	1		異物沈着	2	
胃腸炎	278		放線菌症	4	
腹膜炎	62		その他総数	3	
胸腹膜炎	24		メラノーシス	3	
内臓水腫	23				
			牛疾病総数	24,251	

イ 子牛					
疾病名	年計		疾病名	年計	
呼吸器総数		10	造血・循環器総数		1
呼吸器	肺炎	5		心外膜炎	1
	肺膿瘍	1	泌尿・生殖器総数		19
	胸膜炎	1		腎炎	19
	横隔膜炎	2	運動器総数		26
	横隔膜膿瘍	1	運動器	筋水腫	1
消化器総数		34		筋炎	14
消化器	胃炎	2		筋膿瘍	3
	腸炎	4		関節炎	5
	肝炎	9		脱臼炎症	2
	肝膿瘍	5		関節膿瘍	1
	おがくず肝	4			
	脂肪肝	1			
	肝斑状出血	1			
	肝奇形	1			
	胃腸炎	6			
	内臓水腫	1			
			子牛疾病総数		90
ウ 馬					
疾病名	年計				
消化器総数		3			
	胃腸炎	1			
	胸腹膜炎	2			
泌尿・生殖器総数		1			
	腎炎	1			
運動器総数		1			
	筋炎	1			
			馬疾病総数		5

工 豚					
	疾病名	年計	疾病名	年計	
	呼吸器総数	6,301	泌尿・生殖器総数	1,280	
呼吸器	血吸肺	3,529	泌尿・生殖器	腎炎	863
	肺炎	1,137		嚢胞腎	369
	肺胸膜炎	431		萎縮腎	13
	肺膿瘍	309		水腎症	4
	肺気腫	10		腎膿瘍	4
	肺水腫	10		腎色素変性	3
	横隔膜膿瘍	4		腎落下	2
	横膜炎	1		腎奇形	1
胸膜炎	870	乳房炎		19	
	消化器総数	9,650		子宮周囲腫瘍	1
消化器総数	胃炎	87		子宮蓄膿症	1
	胃膿瘍	2	造血・循環器総数	1,960	
	腸炎	549	造血・循環器	心外膜炎	1,888
	腸気腫	15		心筋炎	7
	腸水腫	5		心内膜炎	3
	腸膿瘍	6		心筋症	3
	肝炎(間質性)	4,145		心水腫	2
	肝包膜炎	1,103		心出血	1
	脂肪肝	885		心奇形	1
	肝炎(実質性)	585		心外膜膿瘍	1
	肝色素変性	440		脾腫	42
	肝出血	31		脾炎	4
	肝膿瘍	14		脾出血	3
	うっ血肝	13	脾膿瘍	2	
	肝奇形	3	うっ血脾	1	
	肝硬変	2	リンパ節膿瘍	2	
	胆管炎	2	運動器総数	4,785	
	膵臓水腫	11	運動器	筋炎	2,846
	膵炎	2		筋膿瘍	970
	胸腹膜炎	828		筋変性	19
	胃腸炎	746		筋水腫	15
	腸抗酸菌症	147		筋出血	9
	腹膜炎	22		骨膿瘍	228
内臓水腫	6	骨折炎症		79	
臍ヘルニア	1	骨奇形		12	
その他総数	7	関節炎		585	
メラノーシス	6	関節膿瘍		12	
異臭	1	脱臼炎症		10	
			豚疾病総数	23,983	

参考 とちく場施設

(平成24年4月1日現在)

名 称	さいたま市と畜場
所在地	さいたま市大宮区吉敷町2-23
電話番号	048-644-2929
営 営 者	市 営 (経済局経済部)
許可年月日	昭和36年12月15日
年間開場日数	245日 (平成22年度)
とさつ制限頭数	大動物 250頭 小動物 1,000頭

1 敷地面積 [14,758m²]

2 建物延べ面積 [7,722m²]

3 主要施設

(1) けい留場 (鉄筋コンクリート造 2階建) [1,633m²]

(けい留所収容能力: 大動物160頭、小動物600頭)

<設備> 生体洗浄装置、生体計量器、円形サークル、レストライニングコンベア生体追込み装置

(2) と殺解体室 [888m²]

(解体処理能力: 大動物250頭、小動物: 1,000頭)

<設備> ノッキングペン、不働化装置、サイドプーラー、ダウンプーラー、脊髓吸引装置、枝肉自動洗浄装置2基、枝肉殺菌装置、インクラインコンベア4基、前処理コンベア、スキナー2基、背割鋸 ほか

(3) 内臓処理室 [500m²]

<設備> 頭、足、皮、内臓各シュート ほか

- (4) 病畜と室 [96m²]
＜設備＞ ドロッパー1基、ホイスト1基、背割電鋸、検査台、冷蔵庫1室
- (5) 隔離室 [64m²]
- (6) 卸売場 [98m²]
＜設備＞ せり機械装置、冷房設備 ほか
- (7) 懸肉室（小動物10℃冷却室・通路を含む） [762m²]
＜設備＞ デジタル型計量機4基 ほか
- (8) 枝肉出荷ホーム [75m²]
＜設備＞ ドロッパー6基、インクラインコンベア1基
- (9) 冷蔵庫（7室、卸売業者冷蔵庫含む） [738m²]
冷凍能力 342,000Kcal、
冷凍能力 大動物 350頭、小動物 500頭
＜設備＞ スクリュー式冷凍機2基、空冷式ユニット冷凍機3基
- (10) 電気、機械室（契約電力 1,340KW） [410m²]
＜設備＞ 変電室2ヶ所、キュービクル3基、中央監視盤1面
- (11) 管理事務所 [250m²]
- (12) 検査員室 [100m²]
- (13) 卸売業者事務所（出荷者控室を含む） [566m²]
- (14) 食堂（買参人休憩所を含む） [99m²]
- (15) 污水处理施設（活性汚泥処理方式） [1,400t/日]

経費一覧

種 別			と畜場 使用料	解体料	と畜検査 手数料	格付料	合計	
牛	未經産		¥4,015	¥3,990	¥700	¥540	¥9,245	
	経産			¥6,090			¥11,345	
	病畜			¥8,085			¥13,340	
馬	普通畜		¥2,650	¥6,090	¥700		¥9,440	
	病畜			¥8,085			¥11,435	
子牛	普通畜		¥2,180	¥998	¥300		¥3,478	
	病畜			¥1,628			¥4,108	
子馬	普通畜		¥815	¥998	¥300		¥2,113	
	病畜			¥1,628			¥2,743	
豚	普通畜		枝肉 100 k g 未満	¥815	¥998	¥300	¥105	¥2,218
			枝肉 100 k g 以上	¥1,172	¥1,995			¥3,572
	病畜		枝肉 100 k g 未満	¥815	¥1,628			¥2,848
		枝肉 100 k g 以上	¥1,172	¥3,098	¥4,675			
めん羊 山羊	普通畜		¥458	¥998	¥300		¥1,756	
	病畜			¥1,208			¥1,966	